

特定非営利活動法人・敬愛会
コスモスの家
〒214 0034 川崎市多摩区三田二一五-13
TEL 〇四四-九三二-二四三五 FAX 九三二-二四四四



コスモスの家

祝
二十五周年記念のつどい開催

三田のまちが開発されて、五十年近くになります。
コスモスの家は、平成元年に西三田岡地の集会所和室にて主婦たちのボランティア活動から始まりました。そのきっかけは、連れ合いを亡くされた一人暮らしの高齢者の方の言葉からでした。

「一番怖いのは孤独、気軽にしゃべりできるところがあれば」という切実な訴えによるものでした。それから二十五年、非営利事業のコスモスの家は、日本国憲法を拠り所に介護保険事業3事業、こすもす保育園を加えて9事業をスタッフ、ボランティア、社会福祉協議会等、地域ぐるみの支援によって、三田のまちに根付いてきました。

現在、コスモスの家は「孤立した人をつくらない、安心安全のまちづくり」を目指し、八十八名の常勤、非常勤とボランティアの方々を合わせて二百名近い人たちが活動しております。

この25年を振り返って、コスモスの家のスタッフたち



れる三田のまちづくり」に大きな役割を果たしてきてきた。

これからますます地域福祉の充実が求められます。次の世代に大きな期待を寄せて、三十周年を目指して行きたいと思えます。

●平成25年9月21日(土) 生田中学校特別創作活動センターにて記念の集いが開催され、約70名の方々にご参加いただきました。

第一部では、コスモスの家理事でもある大阪千代田短期大学副学長山本敏貞氏の「人間らしく生きる権利を否定する社会保障改悪プラン」を本田和隆理事がパワーポイントで解説しました。



こすもす保育園々長、中澤あずみによる「コスモスの家25年の歴史のスライドショー」。

第二部では、三田ハーモニカ愛好会の演奏、こすもす保育園保育士によるヘビダンスを披露しました。

来賓の方々からもお祝いのお言葉をいただき、地域に根ざしたコスモスの家の25周年にふさわしい集いとなりました。

来賓の方々

- 多摩区社会福祉協議会副会長 原田知治氏
- 生田中学校 校長 松井嘉行氏
- レイディアンティストイ向ヶ丘自治会長 三羽隆史氏
- NPO法人たすけあい多摩 理事長 青山幸子氏
- 副理事長 田村弘子氏
- 副理事長 芦澤宏子氏

午後には、コスモスの家のダイサービス室に移動し、お祝いパーティーを開催。25年間活動を続けてこれたことを互いに喜び合いました。

これからも、コスモスの家にご支援、ご協力をお願い申し上げます。



平成二十五年度 コスモスの家 通常総会開催

平成25年6月16日(日) NPO法人・秋桜舎の通常総会が開催されました。

政権交代した自公連立政権は、医療・介護・年金・子育ての全分野にわたって国民の全世代に対する「負担増」と「給付減」という暮らしの痛みをもたらす政治と異常とも思われる強引さで進めようとしています。

企業が撤退した後を受けて、コスモスの家が運営しております「こすもす保育園」は、4月に「川崎認定保育園」となりました。

文字通り「子どもから高齢者まで安心・安全のまちづくり」を目指す、地域のニーズに応えた9事業は、地域経済活性化にも大きな役割を果たしていることが報告されました。

コスモスの家の半分を占める介護保険事業。

国は介護保険制度の要支援・I、IIを給付から外し市町村の総合支援事業に丸投げしようとしています。NPO法人コスモスの家は、25年間の実績を力にして、1億2千万円の今期予算を遂行するために、「ストップ介護保険制度改悪」をはじめ、憲法25条を抛り所に9事業を含めた地域福祉活動を展開することを決定いたしました。



法人認定を 目指して

前号の「認定NPO法人を11指して(経過報告)」では、認定を得るための最短コースとして、まず「川崎市条例に基づく条例指定を受け、その後認定団体となるのが最も容易かつ誠実な方法である」と記しましたが、今回は、川崎市条例指定NPO申請とその後の流れについて紹介させていただきます。

川崎市条例指定に関する書類には、様々な条件があります。その中でも最大の難点と考えられていた寄付者数も無事クリアすることができ、7月末には申請書類を提出、受理されました。法人関係者のもとより、地域住民のみならずまからいただいたご支援に心から感謝申し上げます。

また、川崎市が指定するNPOには、書類審査だけではなく、実際に「どのような事業が行われ、適正に運営されているのか」という立ち入り調査が2度にわたって行われました。特に労務や財務などの書類が適正に処理され、管理されているか等の詳細なチェックを受けました。その結果、川崎市からは「指定相当」という評価を受けることができました。

今後は12月の市議会の結果を待つのみとなっております。当法人が川崎市条例指定NPO法人に認定されれば、当法人に対して寄付した数%が市民税の控除を受けられる仕組みになっております。今後は、国の認定NPO法人実現に向けても寄付者を募っていく予定です。引き続きご支援・ご協力をお願い申し上げます。

本田和隆記

めだかの地域大学 夏休み子ども料理教室

平成25年7月31日(水) 生田中学校特別創作活動センター調理室にて、夏休み子ども料理教室が開催されました。毎年恒例となっている料理教室ですが、今年で3回目を迎えました。28名の参加があり、今年のメニューは「おやつランチ」と題して、ごはんピザ、じゃがいもの冷スープとヨーグルトのフルーツゼリーでした。

今年もヘルスメイトにご協力いただき、調理の前に食育講座を行いました。6グループに分かれ、調理開始。



大人のアドバイスを受けながら、皆楽しそうに調理していました。包丁を扱うことに慣れている子もいれば、こわごわしながら野菜を切る子、男の子の参加もあり、楽しい夏休みの思い出になったのではないかと思います。出来上がった料理はなかなかボリュームがあり、食べ終わったあと「おなかいっぱいーい！」と笑顔で言っていました。

最後はきちんと後片付けをし、挨拶も忘れず解散。これからも、地域に住む児童との交流を継続できればと思います。





介護保険改悪! 今、私たちが動こう!

平成12年4月より始まった介護保険制度が、今、要支援者を介護保険給付から外すなど、制度の根幹を変える大改悪が行われているようにしています。

政府は8月21日、社会保障制度改革の今後の手順を定めるプログラム法案を閣議決定しました。

介護分野における「サービスの効率化および重点化」として、要支援Ⅰ・Ⅱを外し、地域支援事業に移行することと打ち出しましたが、国は予防給付の移行を修正しました。

そして、訪問介護と通所介護を給付から外すしてきました。

私たちは、大阪社会保障推進協議会・介護保険対策委員である日下部雅喜氏を講師として招き、介護保険制度改革(案)のねらいや問題点の勉強をしました。



当日は、NPO法人職員や個人の方、近隣のヘルパーや事業所職員など、約100名の参加者があり、「介護保険をよくする会」を発足させることを確認しました。
また、「要支援サービス切

り捨てと利用者負担の引き上げを中止し、安心できる介護を求めます」と4つの請願項目を決め、国会請願、川崎市長要請の署名活動を進めることを決めました。去る10月12日(土)につくった「介護保険をよくする会」では、署名活動を行っています。

■厚生労働省委員会を傍聴

11月6日(水)国会で「厚生労働委員会」が開催され、民主党山井(やまのい)議員と厚生労働省田村大臣との介護保険の質疑応答をコスモスの家渡辺理事長とたすけあい多摩青山理事長が傍聴しました。

■国会請願署名4,642筆提出

11月26日(木)すばらしい秋晴れの日、「国家機密法案」反対で国会周辺は騒然としていました。

そんな中、私たちは皆様にご協力いただいた署名を携えて国会へ行ってきました。4,642筆中870筆は介護保険をよくする会が集めたものです。

以下の方々に紹介議員になっていただき、国会事務局への提出をお願いしました。

★衆議院議長宛

・衆議院議員 山井和則議員(民主党)

・衆議院議員 高橋千鶴子議員(共産党)

★参議院議長宛

・参議院議員 福島みずほ議員(社民党)

・参議院議員 小池 晃議員(共産党)

■請願項目

- ① 要支援者の訪問介護・通所介護を介護保険給付の対象から除外せず、引き続き保険給付の対象とすること
- ② 利用者の負担割合の引き上げを行わず、低所得者の利用料を軽減すること



- ③ 施設入所者の食費、部屋代補助(補足給付)の対象を縮小しないこと
- ④ 特別養護老人ホームからの経度者追い出しを行わないこと

今回の国会請願については、「高齢者の居場所づくりをすすめる連絡会」(大和郡山市)のセティングされたものに乗せていただきましたが、厚生労働省担当者との懇談もあり、有意義なものでした。

署名活動は、2014年の通常国会において改正介護保険法案が提出されるまで続けてまいります。一人でも多くの方に呼びかけたいと思います。ご協力をお願い申し上げます。

■署名提出先

介護保険制度をよくする会

住所 川崎市多摩区三田2-15-13

NPO法人コスモスの家内

電話

044-1932-2425

担当 コスモスの家

渡辺ひろみ



15年後の2025年、日本の高齢者率はピークを迎えます。

それに向けて今国が取り組もうとしていることは、国が負担する介護費用を削り込むことにはなりません。

そもそも介護保険制度とは、高齢化に伴う心身の衰えにより要介護状態になった人の「尊厳」が保たれ、「自立した日常生活」を営むことができるよう必要なサービスを保険で給付するというものですが、国は次の改定で「要支援

介護保険 改定に思うこと

I・II」と認定された高齢者を介護保険給付の対象から外し、市町村に委ねていこうとしています。現在要支援の人々は、疾患等により外出が困難になってきています。

それでもヘルパーを利用し、買い物や掃除などの支援を受けることで、自立した生活を長く続けることができている方もいます。

また、送迎付きのデイサービスに通い、入浴などを利用している方もいます。

さまざまな介護予防サービスによる生活援助によって生活の意欲を高めることにより、「要介護」状態への悪化を防いできました。それに対し国は、「市町村支援事業にすることでボランティアや元気な高齢者、NPO、コンビニ弁当の利用、掃除会社などの地域の多様な資源を活用すればよい」と提案してきています。もともと外出困難な人にこの程度の支援では、ますます閉じこもりを招き、孤立させてしまいます。

介護保険のサービスに触れることがなく、孤立した生活



す。つまりは、「利用制限により重度化が進む」ことを意味します。

介護保険が大きく改悪されようとしている今、「自分の老後の危機」として、「安心して暮らせる老後」「安心して使える保険」に変えられるよう私たちひとりひとりが今こそ声を上げていく必要があります。

ケアマネージャー 水野正代・福岡真理子記

デイサービス利用者からのお手紙

コスモスの家に行くのは、とても楽しくて待ち遠しいです。職員の皆さんも優しく歌ったりゲームをやったりお絵かきしたり、先生もしっかり指導してくださるので今度はいつかしらとカレンダーに書いてある日程を確認しています。

体育会は苦手ですけれど体の為と思って一生懸命やらせてもらっています。今、国はこれを依りようと思っ

の私にはコスモスではなくてはならないところなんです。どうしたらこれを止めることができるのでしょうか、職員の皆様も大変でしょうが続けられるよう努力をお願いします。かしこ、

デイサービス利用者

河村卓子さん



をしていた方が、何等かで相談に繋がった時は、既に重度の要介護者になっていった例が実際にはたくさんあります。

第6回NPO全国ネット交流会
in 和歌山
和歌山県橋本市で第6回NPO全国ネット交流会が開催されました。

これまで大阪千代田短期大学・副学長の山本敏貞先生のご指導、協力により「NPO全国ネット交流会」を平成18年の第一回から平成22年の第五回まで開催してまいりました。

この間、平成23年3月11日の東日本大震災に見舞われ、劇的な政権交代を果たした民主党政権は、国民の期待を大きく裏切りました。そして、この度の参議院選挙において圧倒的多数で自公政権に移りました。

国の根幹が大きく変化しようとしている中、NPOに対する期待はますます高まっています。

こうした中で「安心・安全に住み続けられる地域社会を作ろう!」をテーマに約100名の参加者がありました。基調講演は、和歌山大学経済学部准教授金川めぐみ氏による「社会保障制度改革プログラムを考える」でした。

今こそ国民一人ひとりが考え行動しなければ人間の尊厳が守られないという思いを強く抱きました。コスモスの家からは、ボランティアを代表して水田道直氏、こすもす保育園中澤あずみ園長、副理事長加藤邦彦、理事長の渡辺ひろみに参加いたしました。

第11回
ふれあい
まつり開催

晴天に恵まれた11月3日(日)

11時から生田中学校特別創作活動センターにて「第11回三田ふれあいまつり」が開催されました。当日は、二百名を超す参加者があり、協賛店28、30名のボランティアの力で、昨年に引き続き立正大学の社会福祉学部の学生の協



力もあり、盛大な「ふれあいまつり」となり、お手伝いいただきました皆様、本当にありがとうございました。午前中は格安でいい品物が出るという評判の恒例のバザー、東北大震災支援の物品(みそ、ふりかけ)販売、喫茶室などが開か

れ、午後は五反田自治会婦人部のコーラスの合唄、ハーモニカ愛好会の演奏で、どちらも日頃の練習の成果を遺憾なく発揮してくれました。終了時にはチューリップの球根3個がお土産として配布されました。「ふれあいまつり」を通じて地域の方々との繋がりは益々濃くなるのを感じた一日でした。

実行委員長 北村隆英記



コスモスの家の
夕食宅配

毎週火曜日、金曜日の夕
方にお弁当を配達していま
す。

コスモスの家の夕食宅配
は、ミニ・デイサービス
からあり、途切れることな
く続いています。

一週毎に肉、魚のメニュー
を考えて地元の軒下の野菜
スタンドで季節の食材を見
つけて調理します。

宅配の申し込みに
は難しい手続きはありませ
ん。苦
手な食材があれば個人対
応をしてお届けします。一
食650円(配達含め)です!

★利用者さんからのお手紙★

「いつも美味しい夕食を届けてくださって有難う
ございます。お腹がすいてデイサービスから家に
帰ったとき、お弁当が届いていると嬉しくってさっ
そく開けてしまいます。果実の梨が細かく刻ん
であると入れ歯の私にも食べやすそう料理をして
くださった方のお心遣いが
ありがたく身にしみます。
今後もうぞよろしく。
コスモスの夕食を楽しみ
にしております。」

生田在住Sさんより
こちらこそ、よろしくお願
いいたします。山田 緑記



だんご
汁の会

今年で第3回目を迎える
「だんご汁の会」。

この会は、三田地域で実施
した「孤立しない安心して
生活するための調査」でお盆
や年末に一人で過ごす」と答
えた方が全体の9・2%だっ
たため、一人で過ごす高齢者の方のために何かできな
いかと考え、具体化された催しです。今年も生田中
学校特別創作活動センター内
の調理室で開催、生田中学校
の生徒さん、松井校長先生、
白井教頭先生、教務主任の内
蘭先生、生徒会担当の福元先
生、明治大学建築学部学生、
園田教授、コスモスの家ス
タッフ、近隣の高齢者の方がたくさん参加してくだ
さいました。



太平洋戦争中、食糧難の際に食卓にあがった「すいとん」ですが、今のすいとんはとてもおいしく、お汁
もいとお味で、毎年おかわり
する生徒さんもいらつしやい
ます。「核家族化」が進む中、
高齢者とふれあう機会も減つ
ています。世代を超えて、地
域の人々が交流する機会を今
後も続けていきたいと思っ
ています。藤井さゆみ記



こすもす 保育園だより

★地域の方との交流★

10月31日はデイサービスに行き高齢者の方とハロウィンパーティーを行いました。高齢者の方とご対面したときは緊張していた子どもたちも交流していく中で気持ちが変わり、手を繋いだり抱っこをしてもらったりと高齢者の方とたくさん触れ合うことができました。



11月6日はマンション住民の方と一緒に民家園に行きました。昔の家を見学している中でホッコリ、まつたりとした子どもたちの表情が見られました。畳の匂いをかいだり囲炉裏にあたりたりして癒しの時間を過ごしました。



両日とも片道約40分とかなり長い距離を歩きましたが、みんな頑張って道ですれ違う方にあいさつをするなど秋の季節を十分に感じ、色々な方と触れ合いとても良い体験が出来ました。季節の変化を感じながら遠出の散歩の機会を今後も増やしていきたいと思っています。

主任保育士 上山知世記



今月の絵の会は、持ち寄った花の種類に目新しい物がなかったせいか今まで描いたものに手を加えて完成させる人が多かったように思います。

それにも必要な作業で、手元にはなぜか描きかけのものもあり、あと一歩で完成となるものです。

栗山先生からオーケーが出て、サインを入れるように言われて完成です。

秋まつりに展示できるように皆さん頑張りました。

杉村敦子記

*十一月から教室が第三木曜日になりました



○イベントアワード

ウェディングドレスを着る時代ではなかったみなさん。あの頃(50年前くらいでしょうか?)ドキドキ、ワクワクを思い出して恋する乙女に戻っていただきました。

「イケメン探します!」とか

「再婚しました!」と冗談交じりのお便りをお友達へ送られた利用者さんもいらっしゃいました。みなさんとてもお似合いです。



●子どもたちのふれあい始まる

10月、有馬小学校3年生による一年間の行事の発表にお誘いを受けました。「ぜひ、デイサービスの皆さんに聞いて欲しい」と子どもたちから声があったと聞いたときにはとても嬉しく思いました。夏のプール授業で、溺れた時のためにと着衣遊泳の様子をわかりやすく劇で発表してくれました。また、子どもたちからの質問では「泊まることはありますか?」「お昼ご飯はどうしていますか?」「など次から次へと時間が足りないくらいでした。子どもたちとの交流が密になってきていることはとても喜ばしいことです。

井口絹代記

